

合併後道路等の 環境美化サービスが悪化



青木 伸一 議員

青木 合併後、道路の除草や交差点の樹木の伐採等、環境美化サービスが悪化したように感じるが道路維持管理方法等が変わったのか。

都市建設部長 旧合志町は職員と委託職員で4名体制。旧西合志町は年2回の民間委託と職員、臨時職員の2名体制。合併後はこの体制で移行したが作業スタッフの1名減等により道路環境が悪化してしまっただ。適切な道路管理を検証し、今後の環境美化サービスにつなげていきたい。

青木 十分な体制が取れ



なかつたのが原因と思われるが、今後の予算編成の方針については。

総務企画部長 18年度は旧町を引き継ぐという形でやったが、今後は効率的な管理という点も含めて、環境美化が低下しないような予算立てを考えていきたい。

広告料収入による 新たな財源確保を

青木 先進的な自治体では自主財源確保の方策として広告料収入事業に取り組んでいるが、市としての認識は。

総務企画部長 県内では熊本市や八代市が取り組んでいると聞いている。今後の研究課題とさせて頂きたい。

青木 広報誌、封筒、庁舎壁面等を利用した広告事業は本市でも十分やれると思うが。

市長 広告事業を取り入れた歳入増という新たな提案なので、今後検討していきたい。

すべての政策づくりに 市民の声を！



木村 功 議員

木村 合併の際につくった「新市財政計画」は練り直して、新しい財政計画をつくる必要があるのではないかと。

市長 国の財政の動向が毎年変わり難しい状況にある。新たな合志市の財政計画を早くつくらなければならぬが、総合計画などが来年の9月か12月になるのでそれと併せながら考えている

木村 生きた財政計画にするために住民参加が不可欠だ。計画に住民の声を反映させるために住民と行政の「協働」をぜひ実現させてほしい。

市長 財政運営にも住民参加は必要だと思う。難しいこともあるが、いろいろ考えて可能なことを追求していきたい。

木村 次に、各種の審議会をガラス張りにする点について。中間報告やシンポジウム、パブリックコメントなどで全ての政策決定に市民参加の道を開くこと、委員会の公募委員を大胆に増やすことが大事。いま公募委

員がいる委員会は。総務企画部長 総合政策審議会と男女共同参画推進懇話会の2つ。

木村 環境対策や都市計画審議会、地域包括支援センター運営委員会、次世代育成支援行動計画委員会や学校給食の委員会なども公募を増やして当然ではないかと。

市長 いろいろな考えの人をバランス良くというのが難しい。十分検討させて頂きたい。



生涯学習教育について！



丸内三千代 議員

丸内 御代志市民センターに「小学生、中学生の施設利用は、高校生以上の同伴者がいる場合に許可する」との注意書きがあるが、経過説明を求め

丸内 来年9月、市の総合計画が策定となっているが、土地利用、都市計画マスタープランおよび農業振興について基本的な考えを問う。

教育委員会事務局長 2階ホールで備品を壊したり、飲食物をこぼすなど頻繁に発生したため制限した。

総務企画部長 来年4月には、まちづくり三法の改正が施行される。総合計画に於ける土地利用の計画が特に重要になってくる。

丸内 社会の中で教育指導するのも、担当の仕事である。子どもたちを排除するという張り紙を、合併後のヴィーブルの利用状況を、どのように感じているのか。市民の声は、届いているのか。

都市建設部長 旧町の二極化を解消して、新市の一体化したマスタープランが使命である。20年後の、市のあるべき姿を描きたい。

教育委員長 施設が元気がない、暗いなど、私の耳にも入っている。利用者数は、この半年で約一万人くらい増えている。助役を会長にして自主事業実行委員会を立ち上げたので、以前のような活動ができると思う。

産業振興部長 農業は市の基幹産業である事を認識し、優良農地の確保に努めたい。

丸内 ヴィーブルを生涯学習の拠点と考えるが、教育委員会事務局長 行革の見直しの検討が、なされるので考えていきたい。

総合計画について！

丸内 ヴィーブルを生涯学習の拠点と考えるが、教育委員会事務局長 行革の見直しの検討が、なされるので考えていきたい。



集落営農への支援対策は！



木村 祐一 議員

大限、活用したい。

義務化された警報器！

木村 住宅用火災報知器の設置義務化についてお尋ねしたい。

総務企画部長 新築住宅は平成18年6月1日から、既存住宅は平成23年6月1日までに設置しなさいという義務化である。

木村 悪徳商法に対する周知徹底と、費用の一部助成金などを考えられるか。

総務企画部長 悪徳商法には啓発が大事。広報紙などで、情報を出したい。自分の生命財産を守る観点から、ご自分で気をつけて頂くのが一番。

路線バスの代替策は？

木村 野々島植木間のバス路線が廃止の危惧に、現況と代替策について。

総務企画部長 この路線は、極めて低い乗車率です。代替については野々島植木間に限らず、新市の中での課題とさせて頂きたい。

